

令和2年度学長戦略経費（重点分野研究プロジェクト）進捗状況報告書

（2021年03月）

研究代表者氏名（所属・職名）	森谷康文（函館校・准教授）		
プロジェクトの名称	地域の変化に関する住民意識の国際比較研究—函館・道南地域とカナダ大西洋沿岸地域を中心に—		
共同研究者氏名（所属・職名）	森谷康文・函館校・准教授 古地順一郎・函館校・准教授 中村直樹・函館校・講師 藤井麻由・函館校・講師 ラモス ハワード・ウェスタン大学社会科学部社会学科学科長・教授		
研究プロジェクトの概要			
<p>急速な少子高齢化や人口減少、若者の流出、労働力不足、中心市街地の衰退、外国人観光客の増加、北海道新幹線の開業、宿泊業における外国資本の流入、外国人住民の増加など、函館・道南地域には大きな変化の波が押し寄せている。本研究では、函館・道南地域の住民がこの変化をどのようにとらえているかを明らかにする。住民意識を明らかにすることで、今後の地域づくりや政策を考える上でのデータを提供できる。</p> <p>また、函館・道南地域の状況をグローバルな文脈で位置づけるため、カナダ大西洋沿岸地域との国際比較も行う。カナダ大西洋沿岸地域は、少子高齢化、若者の流出、人口減少、人口減少対策としての積極的な移民受け入れ政策、グローバル経済での地域経済のあり方など、函館・道南地域と同様の地域課題を抱えている。このような背景を踏まえ、ダルハウジー大学のラモス教授を中心とした研究チームが、既に4都市における住民意識の調査を行っており、その成果も発表されている（Perceptions of Change Project: perceptionsofchange.ca）。本研究は、その実績を踏まえて、函館・道南地域との比較を試みる。</p>			
進捗度	4	←番号を記入	1. 順調に進んでいる 2. ほぼ順調に進んでいる 3. やや遅れ気味 4. 遅れ気味
新型コロナウイルス感染症拡大に伴う遠隔授業への対応や学生指導に追われ、分析作業を順調に進めることができなかった。			
研究実績の概要			
<p>今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う遠隔授業への対応や学生指導に追われ、研究作業を計画通りに進めることができなかったが、以下の作業を行った。</p> <p>1. 住民意識調査の実施</p> <p>2020年7月から8月にかけて、函館市の住民基本台帳から無作為に抽出された市民2,000人に対する意識調査を郵送で実施した。回収された調査票は421件で、回収率は約21%である。</p> <p>本郵送調査については、当初は4月から5月に実施する予定であったが、新型コロナウイルス感染症の拡大と全国的な緊急事態宣言の発令という未曾有の状況と重なり、函館市においても市民生活が厳しい状況に置かれることになったため、市民感情に配慮し実施時期の延期を決めた。しかし、実施時期が大幅に遅れることで転居の可能性もあることから、感染の第一波が沈静化した後に実施した。</p> <p>2. 調査結果の分析および今後の作業</p> <p>9月にかけて行われたデータ入力作業を経た後、9月下旬に研究打ち合わせを開催し、データの一次的な分析を行った。その結果、過去5年から10年の函館の変化に対す</p>			

る函館市民の評価は、概して否定的なものであることが明らかにされた。この結果は、比較対象であるハリファックスの市民が地域の変化を肯定的にとらえる傾向があるのとは対照的なものである。

また、函館市民による回答では、全市域の変化については認識しているものの、回答者が住んでいる小地域の変化については「分からない」の回答が多く、小地域が住民意識の対象となっていない傾向も伺える。

一次的な分析結果については、日英両言語でレポートを作成した。ラモス教授ともデータを共有し、今後更なる分析を進めていく。とりわけ、函館とハリファックスの対照的な結果を説明する要因の特定を進める。描写的なデータについても、函館市民への還元を含め日英両言語での発表に向けた準備を進める。

研究成果の公表実績

【著書】

【学術論文】

【学会発表】

【普及啓発イベント、セミナー、研修会等】

【研究成果の紙媒体、報告書、研修資料等】

【関連URL】